

金春康之演能会

ものすさまじき山陰に

住むとも誰か白露の

古り行く末ぞ哀れなる…

されば柳は緑花は紅と知る事も

ただそのままの色香の

草木も成仏の国土ぞ

よしや思えば定めなき

世は芭蕉葉の夢の内…

しのに物思い立ち舞う

袖しばしいざや返さん

仕舞 放下僧 小歌

本田芳樹

仕舞 誓願寺 小歌

佐藤俊之

仕舞 三井寺

金春穂高

仕舞 阿漕

櫻間金記

一調 龍田

金春安明

上田慎也

狂言 魚説経

善竹彌五郎 上西良介

能 芭蕉

金春康之ほか

二〇二三年二月二十六日〔日〕

午後二時～五時

●全席指定Ⅱ正面 五五〇〇円 脇正面 四五〇〇円

中正面 三五〇〇円 学 生 二五〇〇円

●入場券発売Ⅱ二〇二三年十一月十八日〔日〕から

●お問い合わせⅡ金春康之後援会事務局(10時～17時)

TEL/FAX 〇七四三―五六一三二六九

奈良春日野国際フォーラム 薨

主催 金春康之後援会・桃心会

後援 奈良県

関西元気文化圏参加事業

能《芭蕉》について

『禅鳳雑談』に「芭蕉は禅竹若き時書き候ひて、観世へ遣はされ候ふ能にて候」と書かれていて、与えたという観世又三郎との年齢差を考えて、伊藤正義氏は「早くとも禅竹の四十歳過ぎの作」と推定されています。寂しい澄んだ情趣を持ち、『法華経』の思想にも深く触れた《芭蕉》は、老人の感性からも若者の感性からも生まれぬように思われます。

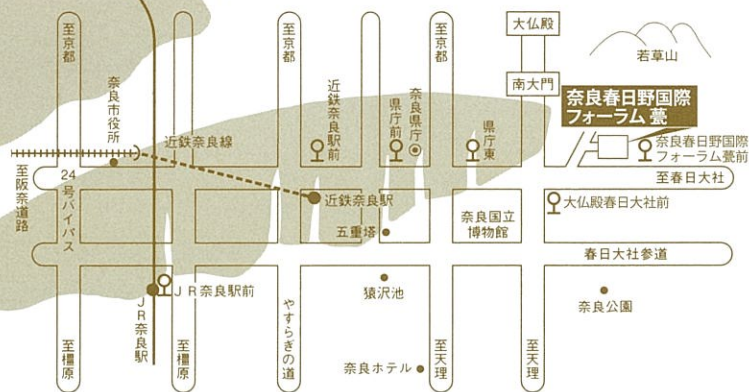
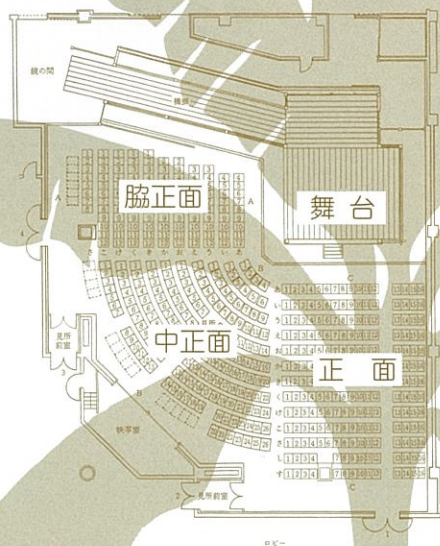
シテは古寺の軒先に生えた芭蕉の精で、女人の姿で現れて、読経をする僧を尋ね、草木成仏の教えを受けて消えてゆき、ふたたび女人の姿で現れ、仏法の理にも触れるのですが、決して、成仏することを喜ぶのではありません。一切のものはそのものの内に真実を持ち、その姿のまま成仏できる、と説く仏法の理を喜ぶのですが、「ものすさまじき山陰に住むとも誰か白露の 古り行く末ぞ哀れなる」と謡い、山陰の古寺の片隅で寂しく孤独に老いてゆく芭蕉であり、「よしや思えば定めなき 世は芭蕉葉の夢の内」と謡って、無常ではかない夢のようなこの世を心に刻み、「しのに物思い立ち舞う袖しばしいぎや返さん」と、物思いに沈みつつも、しばらくは舞でも舞いましょうと、仏法の理とこの世のありさまを受け入れるのです。

ここには時代を超えた、生きるものの永遠の思いが寂しく澄んで美しく描かれてはいないでしょうか。
(金春康之)

金春康之プロフィール

一九五〇年広島生まれ。シテ方金春流第七十九世宗家金春信高師のすすめで奈良に転居し、七歳で金春欣三師に師事。京都大学、大学院を通じてハイデッガーの哲学のなかにある芸術思想を研究し、奈良県立美術館の学芸員を務めていたが、一九九九年に退職し、能に専念。二〇〇一年、重要無形文化財能楽総合保持者に認定。

能楽ホール 座席図



- *本公演は新型コロナウイルス感染予防ガイドラインにしたがって行います。
- *ウイルスの感染状況によって入場者数の制限等をお願いする場合があります。
- *マスクの常時着用、検温、手指のアルコール消毒にご協力をお願いします。
- *会場の換気は十分に行われていることを施設に確認しています。
- *当日の演目、出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。